

入館者 **50万人** 突破！

令和6年10月27日(日)、開館から
570日目に記念すべき50万人目の入館
者を迎えました！



令和5年1月に開館してから、たくさんの方にご来館いただいています。若者の来館者も増え、イベントへの参加者も多くありました。ありがとうございます。

50万人目の方は、市内在住の女性でした。この日に開催したビブリオバトルでお気に入りの本を紹介する中学生の息子さんの姿を、ご家族で見に来たところ、思いがけない節目の入館者となりました。おすすめ本の発表を聞き、紹介されていた小説を読んでみたくなったそうです。記念品として、認定証とほんろぐのセットをお贈りしました。



広がるビブリオバトルの輪

令和6年10月27日(日)に、「ビブリオバトル～おすすめの
本について語りませんか～」を開催しました。

ビブリオバトルとは、おすすめの本について紹介し合い、一番読みたくなった本(チャンプ本)を決めるゲームです。今回は中学生を含む7人の参加がありました。チャンプ本に選ばれたのは「リカバリー・カバヒコ」でした。

次回のビブリオバトルは、令和7年1月26日(日)15時からです。グループワーク形式での開催となり、初めての方でも参加しやすくなっています。たくさんのご参加をお待ちしています。



発表の様子



ビブリオバトル参加者

11月21日(木)に、亀山中学校の学校図書館にお邪魔してきました。

ビブリオバトルの展示があり、授業で生徒が紹介した本や、今回の図書館イベントで紹介された本のリストが貼り出されていました。並んでいる本はほぼ貸出中で、たくさん借りられて読まれているようでした。ビブリオバトルや、友達から紹介された本を読むことを楽しむ生徒が増えていることが分かります。



亀山中学校のビブリオバトル展示

児童書の読み放題、はじめました

11月から、電子図書館に、同時に何人でも読める学習まんがや児童向けの読み物が53点増えました。

全国的に子どもたちの読書量が減っていると言われる中で、気軽に本に触れ、読書をする機会を増やす目的で導入されました。今後、学校では、タブレットを使って友達と歴史マンガ等を一緒に楽しむことができます。

かめやま電子図書館ページの上に「読み放題」のタブがあり、そこから読むことができます。亀山市に在住・在勤・在学の方で、有効期限内のカードをお持ちの方なら誰でも読めますので、ぜひご覧ください。



かめやま電子図書館
読み放題バック

図書館の講座で、深い学びを

10月30日（水）に開催した映画上映会では「老後の資金がありません！」を上映し、友人に誘われて一緒に見に来られた方や、上映後に感想を話している姿が見られました。「見たかったが見逃していたので嬉しい。テレビ放映を見るよりも上映会の形で観られて良かった」という感想もあり、上映会を開催することで参加者同士の交流が生まれていました。

11月10日（日）、17日（日）に行われたプレミアムストーリー7の講座では「頭の体操になり、勉強をしようと思った」「またこのような講座があれば参加したい」といった感想がありました。

講座での学び

中央公民館文学講座「方丈記」

6月から11月に中央公民館文化講座「文学講座」が、図書館多目的室で行われました。人気の高い全6回コースの講座で、毎回会場は満員でした。

講師は日本文学研究家として各地で講座をされている河原徳子さんです。古典文学の「方丈記」の原文と訳を読んでいくことで、人生について深く考えるきっかけとなる内容でした。

講座参加者からは「声に出して読みながら学べるのがいい」「方丈記は読んだことがあったが、講座で知識が増えて解釈ができるようになり、理解が深まった」などの感想があり、来年の文学講座が楽しみという声が上がっていました。



秋に開催した講座（一例）

10/3 かめやま健康セミナー

「生活習慣病を予防するために～健診結果を活用しよう～」

10/5 中央公民館講座

「七感に響く亀山『味覚』～だし（旨味）を取る心は、にっぽんの心～」

10/17 認知症サポーター養成講座

～認知症について、認知症の人への接し方など～

11/7 かめやま健康セミナー

「よりよい在宅治療を受けるために大切なこと」

11/10 中央公民館講座プレミアムストーリー7

「瓦が語る亀山の歴史～出土資料から紐解く地域の歴史～」

11/17 中央公民館講座プレミアムストーリー7

「より良い人生の生き方～算数・図形を解いて認知症予防～」



編集者ひとこと

今回のビブリアバトルが、にぎわったイベントとなり、楽しさを知ってもらえたようで嬉しく思っています。当館では様々な年代に向けたイベントを開催しています。感想を聞くと「良いイベントをやっている」とお褒めの言葉をいただくことが多いです。今後も、にぎわいの生まれるイベントや、本に親しむ機会作りを積極的に行っていきます。

